

新宿御苑菊花壇展を観賞して

同窓会会員：石橋正彦

投稿日：2017年11月27日

毎年11月1日~15日（花壇展開催中無休）に新宿御苑日本庭園で環境庁主催「菊花壇展」が開催されるので、私はいつも楽しみにして鑑賞に行っている。今年も素晴らしい快晴の下、種々の菊や苑内の木々などを見て楽しむことができたので報告する。



御苑の菊花壇展では、懸崖作り花壇、伊勢菊・丁子菊・嵯峨菊花壇、大作り花壇、江戸菊花壇、一文字菊・管物菊花壇、肥後菊花壇、大菊花壇の七花壇が美を競っているが、このうち、特筆すべきは大作り花壇であろう。

今回私は30年ほど前から御苑の花を手掛けている74歳の鈴木さんという職人さんからじっくり解説してもらう機会を得たので、その蘊蓄を紹介したい。今年は天候不順のため、花数が少なく、左の“白孔雀”と中央の“裾野の輝き”が518輪、右の“裾野の月”が489輪であった。去年は確か650輪くらいあったと思うが、最高記録は713輪で、10数年前に記録されて以来700を超える花数は出ていない由。

とにかく、大人の親指の太さくらいの細さの1本の茎から5本の枝を出させ、それぞれの枝から100本以上、合わせて500以上もの花をつけ、しかもその花がそれぞれ径10cm位の大きさというのである。この技術は明治17（1884）年から作り始めて以来、御苑菊花壇に伝わってきた独自の伝統技術で、各地の菊花展に千輪作りというのがあるが、ここにかなうものは無いと胸を張っておられた。



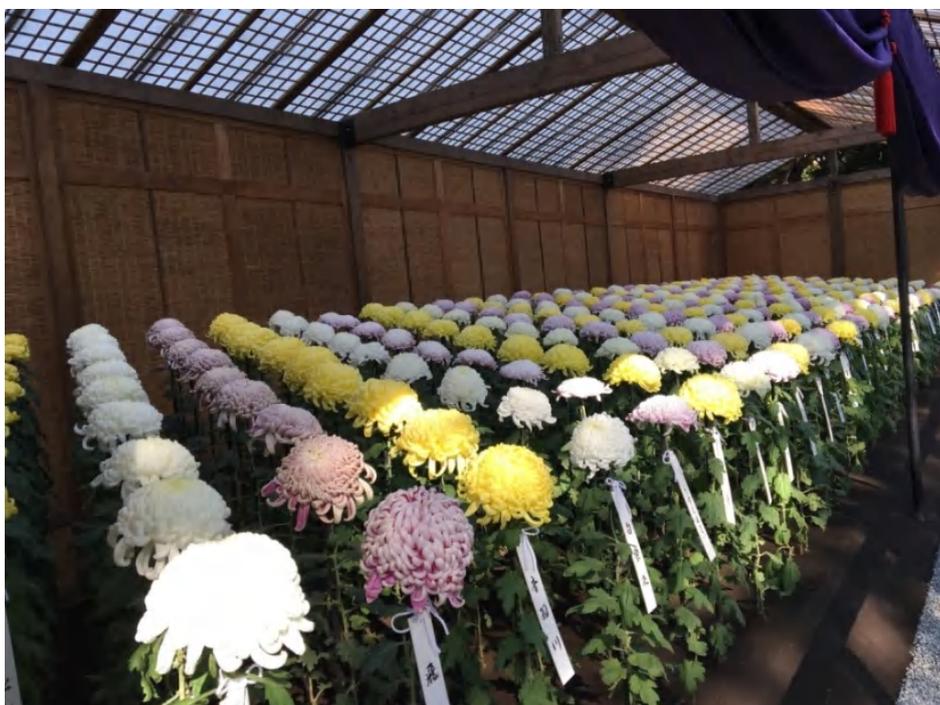
毎年菊花壇展は同じように展示されるが、この大菊作りの菊を育てるのに1年4か月かかるそうで、来年展示される菊は既に腰の高さくらいまで育っているとのこと。毎年31株（何故か31株！）を10cm位の大きさの芽から御苑内の菊栽培所（かなり広い所で、日本庭園の裏にあり、一般は立ち入り禁止となっている）で育て、途中この中から成長の良いものを10株選び、最終的に9月終わりごろ沢山つぼみを付けた3株を選び、展示場に運び込んで形を整える。沢山の菊の中から選抜して3本を選び出すのだから、残りはどうするのかと聞いたら、ただ廃棄するだけと言っておられた。9月に展示会場に持ち込まれた3株のその時点での高さは展示場の天井くらいあり、それを鉄製の穴のあいた支え台に鉄の支柱を立て、1か月かけて、とくに横に伸ばして全体を丸みを帯びた形にする。昔は板と篠竹を使って支柱を作ったので大変だったが、今はずいぶん楽になった由。毎年11月1日に花壇展が始まるので、直前まで上手く花が咲き揃うか、気をもみながら開園を待つとか。とくに今年は天候不順のため、上手く揃うか心配だったが、何とか間に合ったと言っておられた。



9月終わりにこの場所に持ってくる時は陶器製の大きな植木鉢に入れて持って来て、それをそのまま檜作りのせきだい（飾り台、辞書では“しきだい”となっていたが、職人さんは代々“せきだい”と呼んでいるそうだ）に入れて飾る。この台1つで100万円はするとのこと。この鈴木さんは長くここで菊作りをやっているが、まだこの飾台は一度しか交換したことがないと言っていた。手前の竹の囲いはわざわざ千葉から毎年取り寄せるそうで、昔は下の懸崖作りの展示に見られるような木釘と棕櫚縄で止めた（金属は一切使わない由）上屋（うわや）を全部の展示でやっていたが、今は予算の関係から天井もプラスチック製となってしまった、と嘆いていた。ともかくこの大作りだけは一見の価値あり。まだ見ていない方は来年の11月を楽しみにして下さい。



懸崖作りもちょうど花が満開で見事であった。昨年は菊花壇展の中ごろに行ったにもかかわらず、まだ花がそろって咲いていなかったが、今年はほぼ同じころに行ったのに、まさに見頃であった。この懸崖作りだけは上屋も見事で、伝統技術を髣髴とさせるものであった。



この大菊花壇も職人の鈴木さんが丹精を込めたものでご自慢だった。白・赤・黄色、白・赤・黄色とずっと向こうまで整然ときれいに並んでいる様はこれまた一見の価値あり。

以前義母が元気なころ、葬儀などでいろいろな大きさや色の菊が飾られているのを、葬儀後に分けてもらってくるとしばらくは飾っておくが、やがて花びらを取り、茹でて酢の物とし、今度は舌で鑑賞したのを思い出した。赤や黄色の食用菊（“もってのほか”という赤色の菊がとくに美味しい）が食用に販売されているが、東北（の一部かも知れないが）では色や大きさに関係なく、菊の花はすべて茹でて食べる。横浜出身の私は、最初は若干抵抗があったが、慣れると美味しく、結構楽しめる。ということで、菊花壇展、とくにこの大菊花壇の菊は見てよし、食べてもさぞ美味しかろう、との感があった。まだ食べていないが、菊の葉の天ぷらもなかなか行けるそうなので、菊花壇展終了後に試食したらさぞよからう、などと考えたのだが。

日本の伝統文化として菊栽培は優れており、中でも皇室の技術を伝承している新宿御苑菊花壇展は見る価値があり、鑑賞をお勧めする。もちろん 58.3ha の広さの庭園は紅葉も始まり、鈴懸の見事な大木や並木など見るべき植物が沢山あるが、ここでは省略する。新宿駅南口から徒歩 10 分で行ける近さにある新宿御苑。デパ地下弁当でも買って、一日のんびりするの最高である。